



葦山南小学校
学校運営協議会便り

学校教育目標:ともに高め合う きららの子



「地域に信頼
され、地域
とともにある
学校」を
めざして

令和6年6月 発行 第1号

文責 土屋貴俊

持続可能な地域づくりの第一歩は、あいさつでつながることから

令和6年度葦山南小学校学校運営協議会委員の紹介

会長 鈴木 義彦	地域学校協働本部	委員 山本 初男	地域住民
委員 船倉由紀子	地域学校協働本部	委員 渡辺 真臣	前PTA会長
委員 小嶋 友子	地域学校協働本部	委員 田村 誠	きらら応援団/保護者
委員 笹原 正和	南條区長	委員 矢田 吉子	元校長/地域住民
委員 鈴木 良明	中区長	委員 土屋 貴俊	南小学校校長

事務局 教頭 工藤 悟 教務主任 塩谷 涼子

本校は、昨年度より**コミュニティ・スクール（学校運営協議会を置く学校）**としてスタートしています。**学校運営協議会**とは、地域住民や保護者等が学校運営に参画し、「**熟議**」を通して目標やビジョンを共有することによって、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくための法に基づいた組織です。一方、**地域学校協働本部(きらら応援団)**は、地域住民の参画を得て、



「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が連携・協働して行う様々な活動を実行していくための組織です。このように学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な取組によって「**社会に開かれた教育課程**」が推進されていきます。

なぜ、今「**社会に開かれた教育課程**」の実現が求められているのでしょうか？

子供たちは**社会のつながりの中で学ぶことで、自分の力で人生や社会をよりよくできるという実感をもつことができます。**この実感は、**変化の激しい社会**(少子高齢化〈2030年65歳以上人口%〉・生産人口減少・グローバル化・デジタル化・情報化・自然環境の悪化等)において、子供たちが困難を乗り越え、未来に向けて進む希望や力になります。

そのため学校には、社会と連携・協働した教育活動を充実させていくことが求められています。このような社会を創るという目標を学校と社会とが共有するために学校運営協議会が設置されています。これからの社会を創り出していく子供たちに必要な資質・能力が何かを本会で明らかにし、地域と連携・協働しながら学校教育で実現していきます。

本校では、5月に実施した1年生を迎える会で「1年生を温かく迎える」「楽しんでもらう」という目標の下、それぞれが力を発揮し、自己効力感を高めました。今後は、地域との関わりの中でも「自分ならできる」という思いをもてる取組を考えていきます。

第一回学校運営協議会での委員からの意見

○教員の仕事が増えている中、これ以上先生方の仕事を増やすわけにはいかない。先生方の負担を減らしながら持続可能な活動としていきたい。そのためには、地域がつながれるようにしていきたい。

「あいさつを通してつながるまちづくりの推進」

- 今後多くの自治体が消滅する可能性があると言われていた中で、あいさつを通して地域がつながることで地域を活性化していきたい。
- 自然災害が増えていく中で、地域が今つながらなければいけない。
- PTA役員として昨年度校門であいさつ運動をしてきたが、南小学校の子供たちはあいさつがよくできていると思う。お辞儀をしてあいさつをする子供も多い。
- 不審者への対応等から知らない人とは口をきいてはいけないと育ってきた子供たちなので、この人が安全な人だということが分かるとあいさつができるようになる。
- 地域に立ち子供たちに長年あいさつを続けてきた。最初はこの人誰だろうという感じで見られてあいさつが返ってこなかったが、続けていくと笑顔も見られようになりあいさつが返ってくるようになった。～さんのお母さんだと知ってもらえたようだ。
- 無理をしてでも毎日やらなければいけないという使命感でなく、できるときにやろうという気持ちでやった方が継続しやすい。
- 南小の子供は、横断歩道で車が止まるとお礼を言える子供がいる。みんながこのようにできるようになると、優しく運転するドライバーも増えるのではないか。
- あいさつがよくできた子供たちをその都度大人が褒めて価値づけてあげれば、あいさつができる子供に育っていく。
- まずは、大人が進んであいさつをしていかないと子供はできるようにならない。
- なぜあいさつをするのか。なぜあいさつが大事なのか。お世話になっている人や関わっている人への感謝の思いを伝えていくことを大人が言い続けていくことが大切。

「地域がつながるための活動の取組」

- 中條区（チーム中條）では、子供と一緒に活動（田植え・流しそうめん・稲刈り・とうもろこし栽培・お祭り等）を毎年実施している。同じことばかりしていると飽きてしまう子供もいるので工夫して少しずつ進化させている。
- 中区では、納涼祭・しゃぎり・盆踊りなどの行事を行っている。コロナ禍で一度中止になった行事を復活させていくことは難しい。

「児童が安全に登校するために」

- 集団登校だから高学年の子供がお手本になり、あいさつも交通ルールも守れている。
- 登校班の仲間に迷惑をかけないようにという思いから、朝もちゃんと起きられている。
- 逆に時間を守れず、毎日班の仲間を待たせてしまっている子供もいる。
- 低学年の保護者にとっては、集団登校の方が安心である。年間を通して集団にしたい。

「地域の協力者を増やすために」

- 地区の回覧板に学校便りと一緒に人材を募集したい。読み聞かせは応募者が増えた。
- 地域のお年寄りが子供とふれ合うと楽しいという思いをもてる機会をたくさんつくっていくことで、学校や地域の行事に協力してくれるお年寄りも増えるのではないか。
- 学校が子供たちにどんな力をつけたいのか。そのためにどんな授業を行っているのか。参観会でただ授業を見せるだけでなく、ここを見てほしい。こういうことをねらっている等を保護者にアピールしてほしい。そうすれば保護者も何が大切かを理解できる。